令和３年度第２回高砂市総合教育会議　会議録

令和４年２月３日（木）高砂市総合教育会議を高砂市役所本庁舎４階特別会議室において開会

出席委員

市長	都倉　達殊
教育長	衣笠　好一
委　員	山名　克典
委　員	吉田　美香
委　員	神尾　信作
委　員	吉屋　　章

出席事務局職員

総務部長	前田　育司
総務部総務室長	荻野　章広
総務部総務室総務課長	樽家　正治
教育部長	永安　正彦
教育部教育推進室長	阿部　伸也
教育部学校教育室長	赤松　祐人
教育部教育推進室教育総務課長	三木　千鶴
教育部教育推進室生涯学習課長	中野　照久
教育部学校教育室学校教育課長	矢野　仁之
市民部長	川平　貴儀
市民部市民窓口室長	前川　吉也
健康こども部長	福原　裕子
健康こども部子育て支援室幼児保育課長	明定　美喜
健康こども部子育て支援室幼児保育課主幹	小笠原利江
健康こども部子育て支援室幼児保育課副課長	太田　良子

傍聴者

２名

本日の議事

（１）　令和４年度教育予算について
（２）　地域交流センターについて
（３）　就学前施設のあり方について
（４）　その他

○事務局
　定刻になりましたので、これより令和３年度第２回高砂市総合教育会議を開会いたします。
　まず最初に、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長
　皆さん、こんにちは。今、御案内ありましたように、令和３年度の２回目の高砂市の総合教育会議を開催しましたところ、本当にお忙しい中、御出席を賜りましてありがとうございます。
　さて、総合教育会議は、私、市長と教育委員の皆様方と公の場で教育行政について真剣に議論させていただく場でございます。高砂市の教育施策の方向性を共有し、共にすすめていくことができる大事な会議と考えております。本日開催をさせていただき、また、教育委員の皆様方から忌憚のない御意見をいただきながら、高砂市の教育について考えていかせていただきたいと思っております。
　また、最近特にオミクロン株の感染拡大に伴いまして、山名委員にも大変お世話になっておることをこの場で感謝申し上げたいと思います。毎日のように学級閉鎖が起こっておりまして、教育委員会のほうでも本当に対応に苦慮しているところでございます。まだまだ終息まで時間がかかるかと思いますけど、委員の皆様方におかれましても感染に十分注意されて、お願いしたいと思います。
　本日は、三つの議題をお願いするところでございます。
　まず、令和４年度の教育予算について、それから、地域交流センターについて、最後に、就学前施設の在り方についてという内容で議論をしていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局
　ありがとうございました。
　本日は、全ての構成員の皆様に御出席いただいております。出席者の紹介につきましては、お手元に配付しております出席者名簿で代えさせていただきたいと思っております。
　なお、事務局の健康こども部の職員につきましては、後ほど入室いたしますので、御了承をお願いいたします。
　それでは、これから議事に入らせていただきます。
　本日は、令和４年度教育予算について、地域交流センターについて、就学前施設の在り方についてを議題として上げさせていただいております。
　高砂市総合教育会議運営要領第４条の規定によりまして、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長にお願いいたします。
　では、よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長
　それでは、次第に従いまして議事を進めたいと思います。
　まず一つ目の議題、令和４年度教育予算についてを議題といたします。
　資料の説明をよろしくお願いいたします。

○永安正彦教育部長
　教育部長です。
　それでは、令和４年度教育予算について、資料の御説明をいたします。

資料１ページをお願いいたします。
高砂市の教育大綱及び教育振興基本計画におきまして、三つの重点テーマを上げております。
令和４年度の予算につきまして、この三つの重点テーマごとにまとめてお示ししております。
なお、この予算につきましては、市長査定を受けたものを１００万円単位でまとめております概算の数字でございますので、この数字がそのまま予算書として計上されるものではありませんので御了承ください。
教育関係予算につきましては、毎年、教育委員会から市長に対しまして、予算要望を行っております。令和４年度予算につきましては、昨年、１１月２５日に教育長と教育委員の皆様に御出席をいただき、実施いたしました。その要望事項の中で、令和４年度予算の重点要望事項として上げておりました七つの項目について御説明いたします。
まず、１点目として上げておりました、特別支援教育に係る支援員の充実でございます。これにつきましては、重点テーマ１の下から５番目になります、特別支援教育推進事業の中に、令和３年度と同じ人数分が計上されております。
２点目の、学校司書の配置につきましては、重点テーマの１の一番下、学校司書配置事業に新しく計上されております。
３点目のスクールサポートスタッフの継続配置につきましては、重点テーマ１の上から１１番目の教育振興事業に必要な継続配置分が計上されております。
４点目の情報教育推進事業の拡充につきましては、重点テーマ１の上から３番目の情報教育管理事業及び４番目の情報教育推進事業に、それぞれ必要な経費が計上されております。
５点目の学校における感染症対策の充実につきましては、重点テーマ２の上から２番目の小・中学校運営管理事業に必要な経費が計上されております。
６点目の学校施設の改修工事につきましては、重点テーマ２の上から８番目の学校施設建設事業に必要な経費が計上されております。
７点目の史跡石の宝殿及び竜山石採石遺跡整備事業の推進につきましては、２ページになります重点テーマ３の下から２番目の史跡保存整備関連事業に必要な経費が計上されております。
簡単ですが、説明は以上でございます。

○都倉達殊市長
ありがとうございました。
それでは、委員の皆様方から御意見をいただきたいと思います。

○山名克典教育委員
この前、部署の変更をお聞きしたんですけども、部署というか係の統廃合という形で、教育委員会の中の施設係というのを統廃合するかどうか話があったんですけども、そのときに懸念として申し上げたんですけども、学校の中での、教育の現場の中での、毎日毎日の子供らが、児童生徒がそこで勉強するんやとして、安心・安全な環境をつくるためには本当に緻密な点検とか、そういうのがやっぱりすごく大事だと思うんで、だから、そういう意味で、教育委員会の中に施設係というのがあって、日々の細かいことも、そこが生活の場ですから、何かあったときには連絡して、結局、即座に対応してもらうような形で、そういう係もあったかなと思うんですけど、今度、市長部局と一緒になって、実際にはここで十分に動いていただけるということは話を伺ったんですけど、やはり教育の現場を知らなかった場合、対応の仕方として、市全体としたときに優劣、順番、優

先順位どうのこうのとなったとき、即座に対応しにくいところがやはりあるんじゃないかなと思う、そういう懸念があったんですけども、学校の中で子供らが家と学校が本当全ての生活の大半をそこで過ごしてる、その中の環境、安心・安全を保つためのチェックいうのがすごく大事だと思うので、人材的にそういうのが十分、今度そういう組織替えがあって変わったとしてもしていただけるいうことやけど、十分やっていただけるでしょうねという確約いうわけじゃないですけども、それなりの御意見というか、それなりのことを言っていただきたいなと思ったんですけども。

○都倉達殊市長

教育長、この組織の関係で、教育長すみません、今、山名委員のほうから教育の現場のほうの組織再編については何か。

○衣笠好一教育長

施設を包括管理するいうことで、教育委員会の中の施設係というのがなくなって、市のほうとタイアップしながらやっていくという御説明を、前回の教育委員会でさせていただいた、そのことを今お話しされていると、その中で係としては施設係という係はなくなったんですが、市のほうとの連携をしっかりやって、学校現場の教育施設についても今までのような形の対応をしっかりやって、教育施設がいいかげんな形の、ほったらかしにならないようなことは私どもからきっちりと話をしていくということで御理解いただいたというか。ただ、市長さんから今お言葉をいただきたいということやと思うんですけど、山名委員さんはそういうことをおっしゃっとってやいう、私はちょっと理解したんですけどね。

○都倉達殊市長

市全体の中でも、市長としても生徒さんに対しましても、教育全般にわたりまして、きちっと対応させていただきたいと考えております。

○山名克典教育委員

本当に日々、毎日毎日そこに子供たちがおるということで、変な例え話になるか分かりませんけど、図書館とか、あるいは公民館とか、そういうところの、結局その場所を使うのはまれとはいいませんけど、実際、時間的に短い感じ、でも、学校の施設というのは、子供が常に、大人から先生から見ても目が届かないようなところに行ったりとか、いろいろあるけど、学校はそれなりにチェックはいろいろしてるんでしょうけど、日々の本当に修復、あるいは即座の対応いうのがすごく必要だと思うんで、そこに人が、学校からのいろんな要望、あるいはいろいろ報告とかあるでしょうけど、教育委員会の中でも過去の中で、話聞いてた中では、やはり本当毎日のように対応しているような形があったんが、市長部局のほうと一緒になると、やや教育のことに関して、おろそかとは言いませんけど、それなりの緊急性を持った、リアルタイムに対応しなきゃならないという、体質的なものというか、それなりの対応の仕方が保っていっていただけるのかどうか。ちょっとそこがすごく懸念して、この話聞いたときはすごく心配に思ったんですけどね。

○都倉達殊市長

当然、市長部局の側から考えてるのも、教育環境、教育委員会と連携しながら、当然いろんな細かなことにつきましても、お互いに相談しながら進めていきたいとは当然考えております。

そういった中でも、やはり今回の予算の、先ほどの説明にありましたように、スクールサポートスタッフも継続して配置もさせていただきますし、今やはりこのコロナ禍の中で、生徒さん、小中学生においてもいろんな、現場でもいろんな問題を抱えておる状況があります。特に今の、最初にお話ししましたように、学級閉鎖に伴いまして、教育環境も大変、保護者の方々も御心配の点が多々あるというような状況がありますので、やはりそういった点は教育委員会と一緒になって取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

○吉田美香教育委員

学校司書について、こうして御予算とっていただきましたこと、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。どんどん子供たちが読むという行為を喜びにしてくれたらいいなと思っていますので、ありがたく思っています。

先ほど、山名委員がおっしゃったこと、会議の中でお聞きした話ですので、私もやっぱり、ずっと以前にですけれども、学校を改築するときなんかに、建築士さんなんか、設計士さんなんかがいろいろ考えても、子供の身長とかね、そういうことになかなか気がいかないというか、どうしても大人の目線に合わせてものを造ってしまうとか、こんなちっちゃい子がここ見えるわけないでしょみたいなことがあったらしいんですよ。ですから、やっぱり現場にいる人にしかわからないことというのがあると思いますので、その辺のところは何かにつけ聞いていただければありがたいと思いますし、なかなか現場から声が上がらないような部分もあるんですね。何か不都合ないですかと聞かれて、いや実はみたいなのもありますので、ちょっと声が上がるのを待つというよりは、ちょっと様子を伺っていただくという、すごいぜいたくな話ですけれども、何かそこまで、もし、していただければありがたいなという気持ちがありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

今、一つ目の学校司書につきまして、予算を令和４年度、つけさせていただいておりますが、確かに十分ではない人数でありますので、４年度の状況をまた、いろいろ見た上で、やはり考えていく必要性があろうかと思っております。

それと、学校の設備関係につきましても、おっしゃるとおりいろんな提案が出る前にも、やはりいろんな情報収集をしながら、学校によってもそれぞれ状況が違うと思いますので、その辺はやはり学校現場と市側との情報共有をしながら進めてまいりたいと思っております。

○神尾信作教育委員

ちょっと質問にもなるんですけども、先ほど予算の説明をいただきましたけども、学校司書配置事業については、何人分の予算になるかというのがちょっと分からなくて、あと、例えば、特別支援教育に係る支援員の充実というのは、増加ということをお願いしたんですよね。先ほどの説明だと同じということ、ということは増加はないのかな。あと、二つ目が司書ですよね。三つ目がスクールサポートスタッフですか、これは人数分の予算をというお話でしたけども、数字でちょっとおっしゃっていただけたら、昨年と一緒とか、何人増やしましたとか。四つ目がＩＣＴ支援員ですよね。これについても、必要な経費を出してますという御説明でしたけども、昨年度と同じなのか、申し訳ない、人数的なことでお伝えいただかないと、必要な経費というのはちょっと私、把握してないので、もう少しお話しいただければと思います。

○永安正彦教育部長

教育部長です。ちょっと説明が不十分なところがございました。

まず、学校司書につきましては、４校に１人分ということで、１６校ですので、４人分の経費を来年度、計上させていただいております。

それと、スクールサポートスタッフとか介助員につきましては、同数でございます。ＳＡ介助に関しては昨年度と同数。スクールサポートスタッフも同数です。ＩＣＴ支援員も同数で上げております。

○神尾信作教育委員

分かりました。ありがとうございます。

多分そうかなと思ったんですが、市長さんにもこの前、予算要望というときにお話しさせていただいた件なんですけど、今、コロナ禍もあったり、コロナ禍でなくても、とにかく今、教育現場は人をほんまに求めています。当然、人に予算がつくわけなんですけども、その中で、我々は特別支援教育に関するそういう支援員を一番に上げさせていただいて、予算要望の中でも最上位に書かせていただいたようなことがあるんですが、その部分で、先ほどの学校司書が配置されるということは本当にうれしいお話なんですが、特別支援教育に関するこの辺の増員というの、しっかりたしか介助員を増やすことみたいな表現でお願いしておったと思うんですが、今年の、今回の予算については、その分は今さらどうにもならないとは思うんですけども、また来年度に向けて、この状況が、支援員があまり必要にならないということは考えられませんので、ぜひ来年度に向けてはここも最大の要望事項ということで確認していただいて、何とかしていただけたらなというふうに、今回の予算の内容を見させていただいて、司書教諭についてはありがたいなと思う反面、その部分をもう少しまたお願いしたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

特別支援員につきましても、査定時にも教育部のほうから現場の状況を聞いております。その辺はまた状況をもう一度、やはりいろいろ情報を知る中でまた今後のことは検討させていただきたいなと思います。

○神尾信作教育委員

よろしくお願いいたします。

○吉屋章教育委員

この中で、この教育環境の中で市長がぜひ特化して力を入れていきたいなというところをちょっと聞かせていただきたいんですけども、学校司書の配置、ありがとうございます。これ新たな取組で、本を読む子供を増やそうということで、これは絶対必要なことだと思いますのでありがとうございます。

あと、今の子供たちを取り巻く環境といいますか、情報化社会、グローバル社会というところで、これからの子供たちに必要な部分というところで、情報教育とか、ＡＬＴに関する授業とか、この辺が非常に新しいとこで、必要不可欠で、すごく可能性のある分野だと思うんですけども、この中で具体的なところは結構なんですけども、前回、ＡＬＴ、この授業について市長とお話しさせていただいた中でも、学校の授業だけじゃなくて、高砂市には企業がたくさんあるんで、そこにも外国人の方がたくさん働きに来られてるんで、そういうところ連携しながら、協力してもらいながら、子供たちの外国語教育というものを推進していくというような、そんな話があったり、情報教育なんかに

関しては、これからどういったビジョンといいますか、新しいシステム、もっと高砂市も取り入れていくんやとか、新しい分野に踏み出していって、こんなとこにつなげていきたいみたいな。特に情報教育、ＡＬＴ、外国語教育、その辺のところで市長のビジョンみたいなものをちょっと聞かせていただきたいんですけども。

○都倉達殊市長

吉屋委員の話の中で、今、ＧＩＧＡスクール構想という中で国が進めておりますので、やはり昔と違った教育の現場が当然ありまして、昨年もプログラミング教育に関しましても、米田小学校のほうの現場に私も見に行かせていただきました。子供たちが本当に活き活きしながら、体育館のほうでやってる姿を見まして、これはやはり時代背景の中では、これから教育のシステムといいますか、そういったことが大変変わってきてるなというところを感じました。

それと、臨海部の企業においても、小学校においても、トヨタさんが水素カーを持ってきて授業をやられたり、また、いろんな企業ごとに出前授業といいますか、学校のほうに出向いて、各企業の特色のある授業をやっていただいております。昨年も旭硝子さんの本社に行かせていただいたときに、旭硝子さんが市内の学校に協力、何かできますかというお話をしたときに、ガラスのそういう教育をできますよというようなお話もありましたので、今後はやはり、臨海部の企業だけではないんですけど、やはりものづくりという観点でも子供たちが学習できるような場が持てればなというふうに思ってます。

それと、外国人の関係におきましても、企業側のほうに要請もしまして、そういった取組が一つでも二つでもできればなというふうには考えております。

いずれにしましても、先ほど申しましたようにＧＩＧＡスクール構想というのが、いろんなツールが必要になってきますけど、それは、子供たちはやはりこれから将来、どんどんどんどん社会が早いスピードで変わっていきますので、そういった点では教育の現場でそういった授業がこれから進んでいくんではないかなというふうに考えております。

○吉屋章教育委員

小学校の、この前、教育委員会で視察に行かせていただいたんですけども、そこでＩＣＴ教育というか、ほとんどそういう形、電子黒板使ったり、タブレット使ったり、パソコン使ったりしながら授業が、我々の子供の頃と変わっていたんですけどもね、やっぱり授業風景が一変してて、それもいい方向に。みんなでディベート形式で、お互いの資料とか、自分の考えを表に出しながら、みんなで共有しながらという授業、すごくいいなと思ったんです。これはやっぱり市のほうが、そういった設備、環境を子供たちに用意したから、子供たちはそういうものを使ってどんどんどんどん吸収して学んでいってるわけでして、やっぱりそういったものをこちらが用意してあげるということが大事で、子供たちはどんどん、用意されたものがあれば、環境があれば、どんどんどんどん吸収していくと思いますので、他地域に遅れないように、特に情報教育と外国語教育、この辺のところを今後も力を入れていただきたいと思います。お願いします。

○都倉達殊市長

ほか、ありますでしょうか。

それでは、予算についてほかなければ、次に、地域交流センターについてという議題をお願いしたいと思います。

それでは、資料の説明をお願いいたします。

○川平貴儀市民部長

市民部長です。

資料の５ページをお願いいたします。

地域交流センター整備方針の概要をお示ししております。

地域交流センター整備方針は、平成３１年２月に策定しておりまして、整備の目的は、地域住民の活動支援機能を持ち、コミュニティ活動、地域福祉及び生涯学習の推進に資するための活動拠点を提供することを通じ、地域力の向上に寄与することでございます。

ページ下のほう、整備の進め方について、曽根地区は、曽根地区都市再生整備計画に合わせ、地域交流センターの設計をする中で検討していくこととする。その他の地域は、地域と協議して順次進めるとしており、令和６年４月開設予定で、曽根地区と地元協議を行っております。

また、高砂地区においても、高砂公民館を高砂地区コミュニティセンターに統合し、高砂地区コミュニティセンターを令和６年４月から、地域交流センターとする予定で地元協議を行っております。

⑦の管理運営方法について、地域住民が自主的な地域づくりを進めるために、地域の特性を活かした管理運営方法とする。地域に合わせた管理方法（委託又は指定管理者制度等）、地域住民の誰もが関われる参画・協働を軸とする運営方法としておりますけれども、曽根地区と高砂地区で協議を行う中で、地域が運営を担うことが非常に困難であるとの意見をいただいているところでございます。そのため、市直営での管理運営も検討していきたい、いうふうに考えてございます。

ページ前後して申し訳ございません。３ページに戻っていただきまして、地域交流センターについての資料をお示ししております。

これは、各地区連合自治会への説明資料でございます。曽根、高砂以外の６地区、荒井、伊保、中筋、米田、阿弥陀、北浜地区でも、現在の公民館を市民サービスコーナー・市民コーナーと一体化するような形で、令和６年４月に地域交流センターを設置することを検討しております。

一体化した上での地域交流センターの主な機能としましては、地域活動の拠点として地域の活性化を推進、地域の相談、福祉の相談など、相談機能を強化、行政手続の相談や市役所本庁への取次ぎは引き続き行う、などでございます。ただし、地域交流センターとする中で、住民票や課税証明書など各種証明書の即時交付や中筋・米田両市民サービスコーナーで行っている戸籍や転出などの届出は取りやめさせていただきたいというふうに考えてございます。

次の４ページをお願いいたします。

市民サービスコーナー・市民コーナー機能を縮小するだけでなく、この機能を集約し、新たにアスパ高砂３階に、核となる市民サービスコーナーの設置を検討しておりまして、アスパ高砂に設置するサービスコーナーでは、今までできていなかった平日時間外、１７時１５分以降の対応と土日祝日についても対応いたします。設置時期につきましては、前倒しで令和５年度にとも記載しておりますが、イオンリテールとの協議、イオン側のリニューアル工事の延期などもありまして、新たなサービスコーナー設置も令和６年度の予定と延期しております。

こういった現時点での市の考え方を、各地区連合自治会にお示しし、意見をお聞きしているところでございます。地域交流センターとすることについての地元協議については、今後も引き続き市内８地区、全ての地区で地元協議を行ってまいります。

説明のほうは以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。
この件につきまして、御意見いただきたいと思います。

○神尾信作教育委員
学校がコミュニティ・スクールを求められているように、地域の力を生かして地域の活性化を図るというこの目的に書いてることは非常に大切なことなので、方向についてはもちろんこれで、私もいいのかなと思います。
あと、残っているのは、一斉にするのか、そうではないのかという部分とか、あと、それに至る住民の理解の仕方というところがポイントかなと思っています。例えば、先ほどの御説明で、地元協議というお話がありましたが、どのくらいの協議をされて、どういう内容で、どういう方法で協議をするのか。ただ単に協議といってもいろんなやり方があると思うんですね。例えば、広報なんかに載ってますし、あとチラシを配ったりだとか、説明会等をできるだけ小さな単位でやるとか、回数を増やすとか、いろんな形で地元の皆さんに理解をしていただくということをしないと、なかなか納得してもらえないのかなという思いがあります。
もともと公民館が交流センターになるということは、そこが、例えば、営利目的であるものとか、そういうところが使ってもらえたり、地元の人が農作物をそこで販売するとか、お金が絡むようなことも当然してオーケーということになったりするんでしょうし、あとは、問題は誰が、先ほどちょっと説明ありましたけども、本来は住民主導で、住民の方々が中心になって運営していくのがいいんでしょうけども、それができないようであれば、市が主導してもいいですよというようなお話もあったように思うんですが、本来は住民主導であるべきだと思いますので、先ほど一斉という話をしましたけども、それが、条件が整わないのであれば、段階を追って稼働可能な地域からやっていくということも、もちろん考えながらでいいのかなと思います。
まとまりのない話になってますけども、要は、方向としてはいいと思いますけれども、それをメリット、デメリットをどのように詳しく分かりやすく皆さんに説明していくのか、理解してもらえるのかという部分を、今、手元にあるこの図でも、もちろん書いていただいてるんですけども、これをもう少し分かりやすく、コンパクトに分かりやすくしたものができたらいいのかなと。ネットでちょっと私も見せていただいてたら、いろんなものがヒットしたんですけども、その中にコンパクトにまとめたポスターのような形式の、明らかにメリット、デメリット、この部分ができますよ、できませんよというのをちゃんと書いてくれてて、これは自分が初めて見ても非常に分かりやすい資料だなというものも結構ありました。今日、手元にある資料が全てではないと思うんですが、これからするに当たってはそういうところの工夫もしていただけたらなと、そんなことを思います。

○川平貴儀市民部長
市民部長です。
ありがとうございます。市民への周知につきましては、いろんな方法、当然あると思います。広報紙であったり、ホームページであったり。その中でまず、我々が考えているのは、今、各地区、８地区に連合自治会という組織がございます。まずそちらのほうに大きな方向性について、今の考え方を説明させていただいて、もう少し小さい単位、単位自治会であったり、いろんな活動グループ、そちらに関しては、出前講座という形で説明させていただきたいというふうに考えてございます。
それから、いただいたように分かりやすい、もっと分かりやすくコンパクトになったような資料というのは、当然、検討して、周知のほうは丁寧にしていきたいというふう

に考えてございます。

○神尾信作教育委員
　ありがとうございます。ぜひよろしくお願いしたいと思います。

○都倉達殊市長
　ほかございませんか。

○吉田美香教育委員
　私もやっぱり地域の方、多分、例えば、公民館とコミュニティセンターとどう違うのというところから分からないと思うんですね。公民館ってどんなことができて、どんなことができないとか、そういう縛りも分からないですから、もちろん自治会通してというのは、一番話しやすいとは思うんですけれども、自治会に関わらない人たち、これから子育てをして、こういう施設に関わっていってもらいたい人たちというのに対しては、とても公民館って今遠くて、なかなか行くこともないし、何となく行きにくいし、何に使っているのかといっても、割とサークルが、年齢の高い人たちがやってるサークルが多くて、自分たちはあまり関われないとか。ですから、子育てをこれからする人とか、子育て中の人なんかが関わっていきやすいような配慮をいろいろしていかないといけないのかなというのも考えたんですね。
　それと、それ以前に地域ごとに事情が大分違うなというのを、ちょっと私もいろいろ思うところがあって、いろんな地域の人とお話をしてみると、公民館に対する思いが全然地域によって違うみたいで、曽根とかはもう特殊な形ですよね、曽根自身が新しくなるんで。高砂もコミュニティセンターと公民館が別個に、実際に実在してるので、それなりの考え方を持たれてるんです。でも、ほかの地区に関しては、例えば、いっぱい同じような施設を抱えている地区もあると思うんですね。例えば、公民館もあるし、お祭りのために使う公会堂みたいなのもあるし、自治会館みたいなのもあるし、あと、かつての県民交流事業のときに造った施設もあるしみたいな。何かいっぱい重なって、いろんなものがあって、それぞれに違う使い方をしてるから、それを何かこうきちんとまとめていけば、施設も統合していけるし、今、いっぱいいっぱいで市民が運営してるけれども、もっと合理的に使えるしみたいな地域もあるということを感じましたので、地域ごとに丁寧に、本当にここに公民館要るのかなまで、後ろに下がって考えていかないと、何か全然違う状況みたいなので、これは丁寧に、一斉にできたらいいとは思いますけれども、場合によっては地域ばらばらの時期にとなっても、地域ごとに丁寧に見ていっていただいて、それぞれの地域の方たちが本当に使えるものにしていっていただけたらなと思います。

○都倉達殊市長
　おっしゃるとおりで、ハードだけではなく、やはり市民の方々がどういう内容の活動をするのか、そこには交流が広がるための活動が必要だと思ってますし、ただ、やはり地域によっても温度差が当然あるのも理解しております。こういうふうに大きく変わっていく過程においては、説明と今後の活動の在り方というんですか、世代間交流もそうですけど、使われている方々はもう大体定着していますけど、行きづらいとか、また、子供たちが各子供会活動でもだんだん少なくなってきている状況もありますけど、そこにはやはり高齢者の方々、また、中間層であるとか、子供会の中でもいろんな、もう少し広く交流ができるような地域づくり、また、活動をしていきたい中においては、いろんな地域ごとの意見も聞きながら進める必要性があるかなと思っております。

○吉田美香教育委員
よろしくお願いいたします。

○山名克典教育委員
公民館と地域交流センターの違い、吉田さん言ったように、これが地域住民に分かるかどうか、交流センターにしなきゃならない理由はどこにあるかということだと思うんですね。今までの公民館の欠点、メリット、デメリットがいろいろあったと思うんですけど、また今度、交流センターになったときに、実際、前の公民館で地域活動どうのこうのいうよりも、僕のイメージですけど、それぞれの小グループが部屋を使っているような形で、公民館を、場所を提供してもらってるような形の、そういう活動があまりにも多くなり過ぎたんじゃないかと思うんで。それを結局、地域が中心になってコミュニケーション、いわゆるコミュニティとして活動するためには、管理者を、市が直営もありと言われましたけども、確かにそういうのも必要ですけど、直営するに当たっての管理運営だけじゃなし、大事なのはやっぱりそこに一つのコーディネーターみたいな方がおって、地域の中でどんなふうな形で利用していくのか、地域のコミュニティをつくり上げるにはどうしたらいいのかという形の、リーダー的な方が出てきてくれれば、すごくうまく動くんだろうなと思いますから。これがもしもそういうのじゃなくて、ただただ運営の管理、鍵の開け閉めだけが市が直営でやってるいう形になってしまうと、結局はハードだけがあって、結局それなりのコミュニティとしての、当初のいろいろ書かれてる、しようとしている地域の活性化そのものや地域住民の連携、あるいはコミュニティがきちんとできていくかというたら、なかなかいかなくて、曽根の前の小さい建物なんかでも初めは一生懸命やられてたと思うんですけど、だんだんだんだんマンネリ化した形というか、それなりに高齢化ということもあったでしょうし、努力されてた方々の、最初に関わった方の、継続することが難しくなってしまってきてるという。
だから、今回でも多分、僕としてもちょっと大変だなと思うのは、これ立ち上げて、今言ったようにコーディネーターなり入れるような形を先導してくれるリーダー的なものがあったとしたら、一つの機運が起こったとき、それ何年ぐらいもってくれるんだろうなという、持続どこまでしてくれるんだろうな思って。僕なりの考えとしても、高砂のコミュニティも建てたときは一生懸命したいという形の動きがあって、すごいことやってんなと思ったけど、そしたら結局なかなか難しくて、建物の貸出しみたいな形だけになってしまっていったら、将来大変かなという。
それと、せっかく公民館として機能してた部分も、機能を減らしていったとしたら、逆にどういうふうな形になっていくんだろうという懸念が、いわゆる公民館機能のいいところは、今までどおりにしなきゃならないし、かといって裏面としてあった、こういう小グループばっかりの方々があって、地域の人たちがそこに簡単に、実際には入ってやられる方もおられますけど、公民館に気軽に入られてる方もおられるんですけど、もっと使う方が、そこに集まってくれる、身近に気軽に集まってくれる方々を増やさなきゃならない。魅力があるようにするには、やはり何か思い切って市が主導するならいいんですけど、何か一つのプランを持って、それぞれの市の今、プロモーション、あれと一緒で、地域の中、この中で、そういうのも一回インパクトあるような形で持っていってもらわないと運営が難しいんじゃないかと。継続することも大変ですけども、そこがどんなふうにされるんかなという、いろいろ大変だろうなと頭を抱えてて、続けらなあかんとは思いますけど、そういうのをいろいろ考えて、案があればいろいろみんなで出し合っていかなきゃならないんだろうなと思ってますけど。

○都倉達殊市長

おっしゃるとおりで、確かに各地域でリーダーが次々次々育っていくような環境が整えば一番理想的なんですけど、なかなかお一人の人に頼ってしまってて、その人が高齢化していったら、次に誰もいなかったいうような地域が多いのは事実なんです。そこにはやはりたくさんの方々がまずいろんな交流をしながら、その中で育てていくような環境ができればなと思っております。当然、最初に申し上げましたように地域に格差があるのは事実なんですけど、そこに市としてどういうふうに適材適所ができるかなというのが大きな課題の一つではありますけど、何も手招いていてもしょうがないんで、一つずつ取り組んでまいりたいという考えでございます。

○吉田美香教育委員

私がちょっといろんな方に聞いたときに、どういうきっかけで公民館を使うようになったというのをお聞きしたときに、私が子供が幼稚園の頃にはあったんですけれども、保護者たちのサークルみたいなのが、市から予算をいただいてたみたいなんですけど、毎月、お母さんたちで持ち回りで講師を誰か呼んできて、何かお勉強するというようなサークルがあったんですね。そのときに、自分たちのグループが企画の月は、誰か先生を、例えば、身を守るためにじゃあちょっと護身術、勉強しようかとかいって護身術の先生をお願いしてきて、その講師料を出してくださったんですね。それで、お母さんたちでその場所も自分たちで設定してというのを、それをほとんど公民館でやったんです。そういうことで何かその場所に毎月通ってて、親しみがあったんで、その後も自分たちが何かするときに、そのグループって結構残ってるんですね、１年間一緒にやっていたので。本当にこれもまた予算かかる話で申し訳ないんですけれども、本当に少ない予算でした。お茶代ぐらいのものだったんですけど、それでも喜んで協力してくださる講師さんを探してきてやってたんですけど、そういう何かきっかけがあると、グループもできますし、それから、その場所も自分たちの親しみのある場所になっていきますので、何かそういうようなことも逆に、グループづくりも何かちょっと考えていただけるとありがたいなと思います。

○都倉達殊市長

今の内容はともかく、市としてもできるだけ出前授業もいろんなメニューを考えて、市民の方々にも参画していただけるような内容を各部でいろいろ調整した中で取り組んでまいりたいなというふうに考えてますし、また、市の職員とは違う、今の時代に合った内容のものを各地域で集まっていただけるようなことも必要かなとも思ってます。

最近、特に防災関係でもいろんな取組をされておられますので、やはり地域防災というのがこれから一つの学習といいますか、子供たちも含めて防災についての取組も私は進めたいなとも思っております。

○吉屋章教育委員

運営の仕方というところで、行政、民間だけで運営するというのは、今お話があったように、それはちょっと厳しいと思うんですけど、今の状況。しかし、この交流センターがあっての目的というのは、ただ単に社会教育施設という縛りを取って、より自由度の高い施設、利用者に対して開くということだけではなくて、ここに書いてあるように、地域力の向上というところ、これが最終的なこれをやる意味やと私も思いますし、非常に今、この地域の自治活動であったり、コミュニティなんかも希薄化してきて、非常にそういう地域の力というのが非常に弱まってきてる中ですから、私もこういう方向性の取組というのは非常に重要だと思うんですけども。

ただ、これを運営していくその形の中で、完全に行政主導で直営でやっていくとなると、なかなか地域の向上力というところにつながっていかないと思うんですね。やっぱり完全に運営という形は無理にしても、ある程度地域の住民に関わっていって、主体性を持たせて運営していってもらうような方向でやっていかないと、これはもう名前が変わるだけで、大して形は変わらないと思うんですね。だから、そういったところへの支援というか、行政としてはこの地域が主体性を持って取り組んでいけるような事業とか、そういう支援、交付金とか、お金のかかることもあると思うんですけども、そういったところのサポートというところを地域が主体となって取り組んでいかせながらやっていただきたいと思うんですけども。

○都倉達殊市長

本当におっしゃるとおりで、行政のほうが幾ら頑張ってみても、やはり地域の方々、一人一人の方々が多数参加していただいて、いろんなその中でも意見が出て、それをまとめる行政側でも、それを集約して、その中でこういうふうにしましょうとかいうような発展的な活動の場としてこれからの地域交流センターが社会教育も含めて取りまとめていく必要があると考えております。たくさんの方々に関わっていただかないと何も始まりませんので、吉屋委員おっしゃるとおりで、関わっていただく方々が増えることによっていろんな内容も多種多様に膨らんでいきますので、それをどういうふうにしていくかというのが一番重要なことだと思っております。

○吉屋章教育委員

地域によって、高砂市なんか特にいろいろと課題が違いますし、公民館を今利用してる世代というのも限られてますし、そこを今、市長が言われたようにいろんな世代、いろんな分野に関わってる人たちが集まって地区のことを考えることによって、また、新しい人材なんかも出てくると思うんです。その辺をこうしっかりと市の方でぐっと抑えといて、各地区ごとにサポートしていってあげていただきたいなと思います。

○都倉達殊市長

やっぱり吉田委員も言われましたように、足が向くような地域交流センターというのが理想だと思ってます。やっぱりあっこはちょっと行きにくいんやでとかいうことになりますと人が集まってくれませんのでね。

それと、出前授業とかいろんな取組の中でも人が集まっていただけるような内容がやはり伴ってこないと。そこで一緒にみんなで汗かいて、楽しかったねと思っていただけるような場が一つでも二つでも増えれば盛り上がっていくんではないかなと思っております。

ほか、ありますでしょうか。

教育長、何かありますか。

○衣笠好一教育長

委員の皆さんおっしゃったように、社会教育活動というのは、社会教育委員さんのお言葉を借りると、市民の幸せを届ける活動であるということを御意見いただいたことがあるんですけども、そのような形で今こういう公民館が地域交流センター化するについては、社会教育活動を維持しながら、それを発展させるという視点がないと、やっぱり魅力がなくなって、本当に魅力がなくなるいうことは、市民の方の足が遠のいてしまうということになりかねない。そういったことを今御意見いただいたように、具体的な事例を挙げて、何ができて何ができないのかいうようなこともしっかりと示して、市民の

皆様の理解を得て、吉田委員さん言われたように、昔いいますか子育て最中の方のグループがあって、そのグループ、私も公民館のほうなりでそういうグループでいろいろした経験があって、そのときのグループが、まだ続いてるグループが地域の市民の中にあるということも聞いておりますので、そういった地域の方が活動して、地域が主体となるためのサポートをやっぱり市がしっかりとしていきながら、ハード面の部分は市長部局主体でということが大事かなというふうな形で聞かせていただきました。

教育委員会としましても、そういったことで他の部局の市民部であるとか、健康こども部とも連携をしっかりやっていかないかんなという思いで聞かせていただきました。

○都倉達殊市長

ほかありますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次に参りたいと思います。

議題としまして、就学前施設の在り方についてを議題といたします。

資料の説明を、それではお願いいたします。

○福原裕子健康こども部長

健康こども部長でございます。

公立就学前教育・保育施設の今後の在り方について御説明いたします。

この在り方につきましては、７月の総合教育会議や１１月の教育委員会においても委員の皆様から御意見を頂戴したところではございますが、令和４年１月２８日の全員協議会で議員の皆様に御意見を伺いましたので、本日、報告をさせていただきます。

まず、資料の説明をいたします。

資料６ページから１２ページまでにつきましては、１１月２４日の教育委員会で御説明した資料となっており、内容についての説明は省略させていただきますが、その後、１か所修正を加えております。

１０ページをお願いいたします。

荒井幼稚園の３歳児について、今年度、募集をしておりますことから、資料の下から４行目、幼稚園の３歳児の受け入れなどについても検討し、令和４年度より３歳児の受入れを実施すると訂正いたしました。

また、全員協議会で報告した折に、参考資料として提出しました資料として、１３ページの市内各地区の０歳から５歳までの児童数の推移、１４ページの公立就学前施設整備スケジュール（案）、１５ページの荒井地区就学前施設の就園状況の推移をお示ししております。

全員協議会では、在り方の説明に加え、阿弥陀こども園の老朽化に伴う早期建て替えが必要なこと。荒井地区の認定こども園化については、荒井保育園を駐車場整備等軽微な整備により進めていく方法で考えていること。また、その場合、荒井幼稚園を当分の間、併設していく必要があることを説明いたしました。

委員の御意見としましては、特に荒井地区の認定こども園化について、荒井保育園の建築年数を考えると、すぐに建て替えや改修が必要になるのではないか。荒井と阿弥陀を同時にすることは財政的に可能ではないのか。荒井幼稚園と併設することで、公共施設全体最適化計画が進まなくなるのではないか等の御意見がございました。

今後、これらの意見を踏まえまして、市としても荒井地区の方向性について、再度検討しているところでございます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長
　ありがとうございました。
　それでは、この就学前施設の在り方についてということで、各委員の方から御意見をいただきたいと思います。
　教育会議で前々からいろんな報告、また御提案をさせていただいてたと思うんですけど、今、福原部長のほうからもお話ありましたように、せんだって議員の方々全員の全員協議会という中で御説明をさせていただいております。
　何かございますか。

○山名克典教育委員
　最終的にはどういう方針なんですか。ころころ変わるからどれがほんまなんかよう分からんようになってしもうてんけど、現行としてはどういう形で行こうとしてるか。それだけはっきり教えていただけますか。

○福原裕子健康こども部長
　荒井地区のことでよろしいでしょうか。

○山名克典教育委員
　はい。

○福原裕子健康こども部長
　健康こども部長でございます。
　荒井地区については、市内で唯一認定こども園化ができていないところでございます。その進め方については、平成３０年度に幼稚園のほうに増築をして、一体化のうえ、こども園化ができないかというような案を今まで示しておりました。ただ、そこから大分人数の変動もあって、荒井地区については少なくなってきていること、また、荒井の保護者のほうへ説明に参りましたときに、もっと早くできるんではないか。保育所側に認定こども園化するんだったら、給食室もありますし、未満児室もあるので、もっと早くできるでしょうという、保護者の方の御意見がありましたので、少しでも早くできる方法ということを考えまして、保育園側に駐車場がないので、駐車場等の整備をさせていただくことで認定こども園というのは、機能としては満たしますので、そういう方向ですれば、早ければ令和５年度ぐらいに開園できるのではないかということの提案を、今はさせていただいてるところでございます。

○都倉達殊市長
　よろしいですか。

○山名克典教育委員
　それはあくまで提案、案ですから、まだね、ですよね。
　現実的には、荒井幼稚園の状況と、荒井保育園の状況を見てましたら、実際どっちで一つにまとめても難しいかなということが事実。どっちも僕は今、園医してるんで。ふだん行きますので。幼稚園のほうを見れば、せっかくの建物もったいないなという気もするし、保育園やったら狭いし、これどうするんだろうなということでいろいろ悩んでて、実際、それぞれの初めのプランとしてあった高砂市内のこども園化、何園でするかいうところから始まってきたと思うんですよね。それが、今や地区地区にこども園を置かなきゃならないような状況で進んでいってると思うんですけど、実際、公立のこども

園が本当に本音として、本音というか大きな問題として荒井地区に公立のこども園が本当に必要なのかどうかいうのも現実として考えがあると思うんですよ。市当局でそれぞれ、住民のそれぞれの地区地区に対する、私とこあって向こうない、向こうがあるのに私とこがないとか、いろいろなことがあるんでしょうけど、こども園そのものとしては、今、大きな流れとして、園区がないのにいうのが原則としてあると思うんです。そうしたときに地区地区に本当にこれだけ必要なのかなというふうな、もともとあったと思うんです。そうしたときに、始めの前市長からの話やったら、市内に四つのこども園でまとめて、公立は。私立のこども園がそれらと連携して成り立っていったらいいんじゃないかいう大きな流れがあったと思うんです。それが、各地区地区にこれだけの公立のこども園が、それぞれ実際にこども園が機能してますけど、つくっていって、変更はそれと時代の変化であって、変更があっていいんですけど、荒井の部分に関しては、そこも考えながら、今、建物としてどうなんでしょうねという、常につくる必要があるのかどうか、僕は自分自身で思っとんですけど、今度のみどり丘も新しい建物が建つしいうことになったりしたら、人数が割れる状態として、実際、荒井保育園の数と、荒井幼稚園が一つに、実際ばらばらに二つが、幼稚園と保育園があるのを一つにまとめる必要があるんでしょうけど。

あと、在り方に関しては、実際に技術的な、どこにするかどうかは僕は何も技術的なものは何にも分かりませんけど、そういう考えがあったんで。その辺のところが、今、絶対につくるということで動いてるんですかね。

○都倉達殊市長

この１３ページの各地区ごとの令和６年までの児童数の推移というのを見ていただくと、荒井地区も今の令和３年と比べてもそんなに児童数は減っていかない状況がまずあります。それと、周辺の住宅の、新規住宅の環境であるとか、そういった点もやはり情報として入れながら、確かにみどり丘保育園を建て替えて、人気が出るとか出ないとかいう問題はさておいて、この荒井地区という地区の中での児童数が今後減っていく方向ではないということですね、まず。そこで、山名委員が言われるように、公立としてのこども園化をまずしていくのかしていかないのかというところなんですけど、これはある程度のスケジュール感の中では、当然、今、市としては、市がきちっと子供たちも、若い世代の方々をサポートしていくという考え方でいかないと、なかなかすぐに民間での移行というのはすぐにはできませんので、今の段階では今の状況を見ながら進めていくということになろうかと思っております。

○福原裕子健康こども部長

今、山名先生がおっしゃられたことのお答えの一つとして、本当に認定こども園を望んでいるのかというところに関しましては、実際、保護者のところへ説明に参りました折にも、保育園へ行ってらっしゃる方に御意見を伺っても、こども園化してほしいという意見が圧倒的に多いです。と申しますのは、幼児教育・保育の無償化があったりとか、高砂市の場合は給食費の無償化というようなことを進めておりまして、その中で、もともとの認定こども園のよさといいますか、親の就労の状況にかかわらず園を変わらなくてもいいというようなメリットが、認定こども園の最大のメリットだと思っておりますので、そういったところをまたこのコロナ禍の中では、いろんな状況でお仕事を変わったりとか、辞めざるを得ないとか、そういった方も結構いらっしゃいます。そういった中で、お仕事がなくなってしまうと、保育所では入れないので、幼稚園のほうへ行っていただかないといけない。また、幼稚園の方が途中でお仕事をしたいということで、家庭の経済的な理由でお仕事したいといった場合は、保育所のほうへ入れてほしい。そう

いった融通が利くのが認定こども園の一番のメリットでございます。そういったところのメリット、また、幼稚園側にすると、給食費も無償になってるというところで、長時間見てもらえて、給食も、副食費もただであるというのはすごく魅力的だということで、認定こども園に行きたいという保護者の意見はたくさんあります。

今回、アンケートを保護者のほうに取りましたら、高砂市外へとか、荒井地区以外へ行っておられる方の御意見の中に、なぜその園を選んだかという中で、認定こども園だからという御意見がやっぱり出てきます。そういったことでは、認定こども園のよさを分かった上で保護者の方が選ばれてると思っています。荒井の近隣のところでいうと、一番の理由はやはり近いからとか、小学校区があるからとかいう理由がまた多いんですけれども、その地区に行ってない方、もちろん勤務先に近いとかという理由を選ばれてる方もいるんですけども、やはり認定こども園だからという理由のところが上がってきたというのは、ここ数年変わってきたところではないかと思います。そういったところでは、認定こども園化というのは求められている。荒井地区にも欲しいと思っておられるということは一つあると思います。

ただ、それが公立でないといけないか、民間でもいいのかというと、民間でもいいと思ってらっしゃると思います。それが特に荒井の中ではみどり丘に集中してるというのは、そういった例もありますし、他地区のところを見ましても、特に公立にこだわってる様子は見られません。近いところの民間園があったら、そちらの方を選ばれてるという傾向がありますので、認定こども園は欲しいけれども、公立でないといけないかというと、そうではないと感じております。

○山名克典教育委員

だから、事実、今の地区で、この高砂市内で荒井幼稚園と荒井保育園だけが残ってしまってしてるから、確かに認定こども園にして、それをしなきゃならないとは思うんです。１個残っとるからね。ただ、それの在り方として、今言った公立であるか民間であるか、それは今の状況では多分民間がそれを全部引き受けましょういう形では現実ないと思うし、ということになれば、公立で今現実の荒井保育園と、そこの老朽化した建物を建て直す必要があるしということになれば、やはりつくらなきゃならないんだろうなとは思ってます。実際そう思ってますよ、だから、つくってやらなきゃならないし、荒井地区の人口の減少そのものもそんなに急激に減るような感じじゃなくて、多少は当然減るんでしょうけど、もう１園、きちんとこども園があれば、このニーズに応えれる状況になるでしょうから、やっぱりするべきだと思って。後はつくるんだったらつくって、僕らが結局関わって、教育委員がそれなりで、どこでする、どうのこうのいうのは関われる問題なのかどうかというのもあってね。だから、いつもこれ問題上がってくるけど、考え方としたら幼児教育の中でのいろんなこと、今、部長が言われたことは全部理解できてるんですけど、そしたら何でこれ、何回も何回も上がってくるんかなということで、僕らが決定権あるわけじゃないし、結局、議論させてもらうと、結局こども園の必要性は認めとる、実際に大事なん分かっとるけど、そしたら時期云々どうのこうの、場所云々に関しても、僕らが意見を言って言えるようなことじゃないんでね。大筋として認めて、そういうことで進んでくださいということでなってますやん。そしたら、僕ら多分関与して、教育委員として関与したのは、結局、幼稚園の３歳児教育をそこへ早く、場所的に今やってもらったらいいんじゃないか。荒井幼稚園のほうが人数も少ないし、少人数であったら教育の場としてあまりにも人数が少なかったら、それはやっぱり駄目でしょうということで、そしたら、３歳児も入れてそれなりの人数がおれるような形にして、事前の、次が出来上がるまでの間は機能できるような形、有効利用して、有効な形、うまく幼稚園として機能できるような形に間口を広げて取ってあげてくださいとい

う形の僕らの意見があって、実際なってくれてると思うんで、そういうことだけなんで。後は、早く決定して、早く建てて、住民のニーズ等に応えて上げてほしいという、そういうことだけですけども。

○神尾信作教育委員

私も全く同感で、何回も議題に上ってるなと思いながら今日も来させていただいたんですけども、ちょっと重複いたしますけども、やっぱり適正な人数ということからもあって、今回、３歳児も入っていただけるということ。それは非常に大きなことだと思います。

あと、こども園化のメリットということでは、無償化ということはもちろんありますけれども、あと、民間と公立というところでいうと、公立のほうがこども園、小学校、中学校の連携という部分が、現場からするとその辺がやっぱり申し訳ないけども、公立こども園、小学校、中学校というつながりのほうが非常にスムーズな連携、つながりができるのかなと。もちろん、民間が一切ないということではないんですけれども、スムーズということでいえば、月に１回ぐらいはそういう定例の打合せとかがあったりしますので、ですから、その辺でも公立のこども園化というのはメリットが、無償化と同じようにメリットがあるのかなと、そんなことを思ったりします。

○福原裕子健康こども部長

おっしゃるとおりで、今までやはりそこが民間園と公立園、やっぱり公立園は小学校との連携というところでとても密だったり、民間園のほうがなかなか行けてなかったというところもあります。ただ、今後、教育委員会と相談させていただいてるんですけども、幼児教育アドバイザーということで、アドバイザーの先生であるとか、指導主事の先生方に来て指導していただいて、特に５歳児のところにつきましては、指導していただいてスムーズな小学校へのつながりということを重要視しております。

その中で、今まで弱かった民間園のところも来年度から積極的に行ける方法をということで、アドバイザーのほうが、もし人数が増やせるようであれば、そういったことも考えていきたい。民間へ行かれても、公立へ行かれても、同じ小学校のところに集まってくるわけですから、やはりそれは公立だけでは駄目で、民間のほうも同じようにしていきたいということで、今、検討しているところでございます。

○山名克典教育委員

以前からの懸念としてあったのが、公立と私立との結局こども園、ほとんど今こども園になってるけど、ここの連携の問題と、結局それぞれの私立と公立と、公立の分はそれぞれの教育方針あるいは保育方針とか見せていただきますけど、私立のは、僕ら見たことないんですけど、こども支援の課にはそういうのは上がってくるんですかね。各園それぞれ当然あるでしょうから。そういうのが実際として報告というかプランというか、教育方針あるいは保育方針、そういうのは公立と同じような形ではいただいてるんですかね。

○福原裕子健康こども部長

指導計画のところまでは民間のところは上がってこないんですけども、高砂市の場合は、合同の指導計画をつくっておりまして、それを基礎にして、民間園もするということで、それをつくったときに民間園も全部欲しいと言われましたのでお渡ししてます。ですから、基本的なところは同じように進めてるんですけども、実際、園のほうへそういう機能的な部分、設置基準が満たされてるかというところは、市のほうも、行政も入

っていって確認をしなければいけないということになってますので、施設面の基準というのを満たしてるかというのは見るんですけれども、実際の保育内容のところまでは今まで入っていけてなかった。もちろん、障がい児の教育であるとか、そういったところは民間園にももちろんお声かけして、研修会も全部お声かけをしてます。近年では虐待のことがよく問題になっておりますので、虐待の防止であるとか、そういったところは公民かかわらず一緒にしていこうということで、研修も同時に案内をさせていただくようなことをしております。

○山名克典教育委員

こども園で結局、公立に関しても、管理がこども支援の課のほうにいって、施設的なものはそうでしょう。いわゆるハードとかいろんなものはそちらで。教育の内容に関しては、教育委員会と連携して、教育委員会の言ったようにサポート等あって、結局、こども園の中での教育いうのは、３歳児教育を含めていろんなことをやっていきましょうといって、緻密に連絡し合いましょういうことになってますよね。それが、公立によっても僕らも非常に難しくて分かりにくいところがあって、学校教育の中で入ってるから、ある程度は理解できる、こども園のやっておられることに対してそういう指導方針とか、それなりのものを満たしてもらって、どこの園を見ても同じ内容かいてますけど、多少の語句の違いがあって、それを見て、一応それなりには理解していってんねんけど、私立の分に関しては、やはりそこも市内における教育の施設であって、そしたらそれの分の管理、きちんとした形のもやっぱり、僕は教育委員会が関与しなきゃならないかなと思とうから。だから、それなのにこども支援の課のほうも結局施設のそういうチェックはあるけど、それで実際に管理、届出云々したときに、それなりの内容に関しては、高砂市の声にあります、それにのっとって教育あるいは保育をやってくださいというけど、それなりの連携、それなりのやられてるかどうかいうものを、教育の分に関して、実際にはどんなふうに、高砂市内にありながら関わりができているのかというのはすごく気になってて、何か非常にそうだなと思って、できてないんじゃないか、十分に連携できてないなと思うんですけど、やっぱりこれはもっと、多分できてないんだと思うんで、これからもっとしなきゃならないかなとは思うのが事実なんで、その辺がすごく大事やと思うんです。私立と公立との違いがそこにあって、私立は特色ある教育、いろんなこと、あるいは習い事にしたって全部それなりのサービス的なものがいっぱいやられる、だけどもやってて、だけど、その教育はどんなふうにやってるんだろうというのが見えないところが、高砂市内にありながら、同じ市民の子でありながら、やはりそれなりの今言った高砂の一つの大きな基準とは言いながら把握できてないから、今言った小学校と連携が進んでいく、中学に関してもうまく連携が進まないのも、やはりふだんのときのそれなりのつながりが少ない、連携が少ないと思うんで、それがどんなふうにされてるか、もっと密にしていかなきゃならないんじゃないかなという気はずっとしております。それ、やっぱりこれから努力しなきゃならないかなと思っとんやけど。

○福原裕子健康こども部長

御指摘のとおりだと思います。そこについてはまだまだできてないところがたくさんありまして、来年度からずっと教育アドバイザーという形で民間園のほうにも行けたらということは考えておりますけれども、どんな形で進めていくのがいいのか、特に５歳児のところをどう進めていったらいいのかというのは、教育のほうにも御相談しながら進めてまいりたいと思います。

○都倉達殊市長

今の点で教育長何か、就学前の。

○衣笠好一教育長

山名委員さんおっしゃるとおりで、６割以上民間が、子供たちがおります。特に５歳児さんなんかは当然、民間の子供さんが小学校に来るわけですから、連携といいますか、中には接続をきちっとしようと思ったら、その辺、民間とか公立とかいうことじゃなくて、同じように捉えて関わっていって、教育の質の部分を高めていくいうのは大事だと思うんで、ある程度民間さんによってもそれぞれの考え方があって、全部が全部拒絶でもないし、協力してくださいということで、小学校の校長先生にお願いして講演会を開いたり、やり取りしてるところもあるんで、積極的に交流しているところの例をしっかりと示していって、今後、民間、公立を問わず幼児教育と義務教育の滑らかな接続というのは考えていかないかんと思うんで、ここは健康こども部さんもちろんですけども、教育委員会としてもそういったことで連携することが必要かなと思ってますので、ここはこれまで以上に積極的に取り組むというふうなことは必要かなというふうには考えております。

○都倉達殊市長

確かに公立と民間との間での、市としてもやはり今教育長が言われましたように、その辺の差が出ないように、小学校に入ったときに民間と公立との差が出れば、子供が一番かわいそうなんで、その辺はやはりいろんな意味で民間に対しても、山名委員言われましたように、指導しながらやっていきたいと考えております。

○吉田美香教育委員

前回の総合教育会議でも、この件についてはお話が出てたと思うんですけど、そのときに、阿弥陀こども園の建て替えがあるので、こちらを急がなきゃいけないので、荒井のほうは保育園のほうを改築してというお話が出てたと思うんですけれども、そのときに聞けばよかったんですけれども、阿弥陀と荒井、同時進行というのはできないことなんでしょうか。例えば、曽根と米田、同時進行しましたよね、こども園化するときに。

○都倉達殊市長

絶対無理かといえば無理ではないんですけど、ただ、いろんな諸事情、今そういうふうに調整しながらやっておりまして、こども園だけの、全体の財政的な中で、どういうスケジュール感でやっていくかというところになってしまうんですけど、確かに米田と曽根は同時にやったいうのも、それは当然そのときの財政の中で判断したということになろうかと思います。

ただ、阿弥陀のほうは、私も現場のほうを見に行っておりますけど、コンクリートのかけらが下に落下するような、ちょっと危ない状況も見させていただいておりますので、やはりあちらのほうを、阿弥陀のほうを早急にする必要性があるかなという判断をしたところでございます。

○吉田美香教育委員

それと、先ほどの私立と公立の小学校１年生に入ったときの足並みのそろわない感じというのが、私も実際に自分が目の前に子供たちをしたときに、言葉が通じない、通じないといったらいけないんですけど、共通の言葉がないような状況というのがあるんですね。何か公立のこども園から来ると、ある程度、校長先生と園長先生の間で話ができてるのか、同じ言葉で通じてるというところがあるんですけど、それが通じなかったり

というのがちょっとあって、そういうのというのは、もちろん園長先生方の公立、私立の情報交換というのも大事だと思うんですけど、小学校側も、私立のこの幼稚園ではそれぞれ特色を出されて、独特な教育されてますから、この幼稚園から来た子はこういうふうな教育されてるよみたいな情報も、小学校の先生方も持ってたほうがいいんじゃないかなというのを最近ちょっと、ここで言うことじゃないかもしれないんですけど、感じてますので、できたらそういう情報を教育委員会のほうにいただけるとありがたいなと。そうできるのかどうか分かりませんけれども、この幼稚園ではこう、このこども園ではこんな感じで教育してるから、その子たちが結局入ってきて、自分が先生たち見なきゃいけないんで、何でこの子は何回言っても分かんないんだろうというのがあると思うんですよ。でも、子供にしてみたら、保護者の方がおっしゃるには、自分が行ってた幼稚園ではいいと言われてたから子供がしてるのに、先生にどなりつけられたということで、子供がもう行きたくないと言ってるとかいうトラブルがやっぱりあるわけですね。そしたら、やっぱり自分が信じてやったことが通らない世界に入ってきちゃったみたいな感じがあるみたいなので、やっぱり先生のほうも、何でその子が言うことを聞かないのかという事情を知ってたほうがいいと思いますので、やっぱり私立のこども園、保育園と小学校との関係も密にしとかないといけないと思いますし、そういう情報がいくような状況をつくっていただくことで、子供の何かトラブルも減るんじゃないかなと感じています。

○都倉達殊市長
今の吉田委員の話で。

○吉田美香教育委員
すみません、ここで言う話じゃなかったかもしれない。

○衣笠好一教育長
言いたい思いはあるんですけど、この場で言うてええんか分からない。
ちょっと誤解をおそれないように言わせてもらうんですけど、簡単だと思うんですよ。例えば、今、吉田委員がおっしゃったように、小学校に上がる前の５歳児さんの様子を見て、どんなふうにしてるか、また民間がどんなカリキュラムといいますか、教育課程で指導してはるのかいうの、公立はある程度分かるんですけども、そのときに、例えば、校長先生がふらっと民間に行って、来ました、また何人かうちに来てよねと言ったら、もうすごい親切に民間の方は、よう来てくれたいうて、いろんなところを見せてくださって、こんなことしてるんや、こんなことしてるんやと教えてくださるんで、そこは本当に難しいことではないと私は思ってます。あと、校長先生の意識であったり、小学校で何かカリキュラムをつくったときに、ジョイントのカリキュラムがあるんですけども、５歳児さんの、例えば、荒井だったら荒井の保育園とか幼稚園とは合同で研修するんですけど、一緒に、みどり丘さんも一緒に来ませんか、白兎さんも来ませんか、いうふうなことをやれば、民間さんは多分来てくださると思うんで、そういった仕組みをやっぱりきちっとつくってやっていけば、できないことはない、そんなに難しくはないけど、ただ、難しくないんだけども、民間さんの意識が、やっていきましょうという意識を高めていくいうことが一番、難しくないんだけども、そこが難しいといえば難しい。だから、普段から管理職である園長先生と校長先生が仲良しになって、足を運べば、難しいことは本当はないとは思うんですけどね。

○吉田美香教育委員

すみません、これはちょっと場違いだった、申し訳ないです。

○吉屋章教育委員

それで、そういう形で私もいいと思うんですけどね。民間と公立の園長先生というのは、結構、交流、高砂市の場合やってますでしょう。逆に、私もイメージ的には公立のほうがしっかりして小学校に来ると、変わっていけるというイメージなんですけど、話聞いてたら、結構交流の中で、民間は特殊なことというか、特色あることをされてるから、逆に取り入れることも多い。今の難しいとこがそんなあちこちもなくて、みんなで集まろういうたら、集まっていろんな話ができるような関係性って、今は築けてるみたいなんで。逆にそういう機会を増やして、アドバイザーを入れて、ただ単にこうですと指導するんじゃなくて、何かこう、可能であれば小学校の先生なんかも含めながら、全体で話していくような機会をつくってあげたら、そういう形で教育委員会が関わっていったらいいんじゃないかと思うんですけど。

だから、園長先生同士というのは、民間と公立の園同士というのは、お互いがどんな、細かいところまではあれですけどね、どんな特色持って、どんな教育されてるかというのは、園長先生同士ではよく分かってる思うんで、教育委員会と我々のほうが分かってないだけで、そういう機会を、我々が知る機会も含めてつくっていただけたらと思いますけども。

○山名克典教育委員

私立のほうを変に言うわけじゃない、民間の保育園とかこども園の中もそうですけど、結局、教育の状態というのが把握できてない、理解できてない、僕らに全然伝わってこないのもあるんですけど、実際、僕がいわゆるこの、先ほどの特別支援の問題のところで、特別支援で就学前の健診の、特別支援の診察のときに、やはり公立と民間とでなぜこの子がそれなりの幼児期のときに手を加えられなかったかということになると、やっぱり公立と民間、すごく差があるんですよ。やっぱり子供の特別支援に対する意識の問題、こうなるとやはり学校の、それぞれのこども園の中での、民間が低いとは言いませんけど、本当に民間でも一生懸命やってるところあるんですよ、事実。かと思えば、本当にええという感じで、ここまで今まで放ってたという感じの、関わってあげてサポートしとけばそれなりのものが得られたでしょうというか、この子にとってのもっといい環境が選択、早くできたでしょうという形のことがあるんで、そういうことをやはりするためにきちんと、先ほど言ったアドバイザーがどこまでやられるか分かりませんけど、結局、きちんとそれなりの、見つけていってあげて、今の巡回訪問とかやったり、教育相談とか、いろいろやってるといいつつ、なかなかピックアップできてない。子供がピックアップされないで放っとかれてるような形があると、落ちこぼれじゃない、本当にやっぱり拾ってあげないと、それでないと高砂市の教育としての全て、そういう子が落ちていって、やっぱり取り残されてる子があると大変なんで、やはりきちんといいことは全部、公立でやってるようなそれなりのチェックしてる、それなりに対してのチェックしていくような形の仕方とか、そういうのをやっぱり民間にもきちんと推し進めて、共有して、士気を持って、高砂の中の子に関しては同じような形でそれなりの教育が受けれる、あるいはそれなりのサポートを得られるような、そういう場をつくっていくためには、本当に差がないような形、最低限のレベルは差がないように教育をやってほしいと、保育もやってほしいと、そこから、特色ある、公立はなかなかそれぞれのこども園の特色出せないですけど、私立は特色、いろいろなそれに対しては機材の購入とか予算が私立やったら金のかけ方が違うんだろうけど、公立はしてくださいと言ってもお金出してくれませんから、なかなか難しくて、各それぞれの特色があるものを、何年間計

画で、例えば、いろいろなことをやりたいといったら、そういう予算をつけて、それぞれのこども園の特色を出すような形でやってもいいんだろうと思うんですけど、それらは市長の権限、気持ち一つやと思うんで、そういうのをやっていただければうれしいなと思うんですけど、そういう話は別として、実際、最低限のレベルのものをするためには、本当、アドバイザーが行く言われるのはどんなんか分からん、本当先ほどから言ったように巡回とかそんなんで、もっと民間もきちんとできてないところはやはり指導というか連携して、明らかにアドバイスしていって、してあげないと、そのところの子供がかわいそうで、やはり小学生のときには本当に、ええという感じの子、これはちょっという感じのがいっぱいあって、何でチェックされないんだろうと、ピックアップされないんだろうということがあるんで。管理監督、今言ってる施設だけじゃなくて、教育の内容に関しても教育員会と関わって、結局どんなふうにやられてるかいうのは本当に入念に、いわゆる網の目を細かくして、網羅してみていってあげてほしいなと思うんですけどね。

○福原裕子健康こども部長

特に特別支援、障がい児保育のところにつきましては、２年前に民間の園長先生のほうからも、園に来てほしいということを要望されました。今実際、健康増進課の保健師が巡回に回ったりとか、児童発達支援センターを持っております児童学園のほうの職員が、特に課題があると思われるお子さんのところを実際に見に行く保育所訪問とか、そういった事業もやっているところでございます。

ただ、それも公立中心ではなくて、民間のほうにもどんどん入ってきてほしいという要望が出て、昨年度も民間のほうにまず希望がないかというようなことを聞きまして、入っているような状態です。

ただ、そこについてもまだ十分にできてない園もあることも確かですので、そういったところ今、山名先生がおっしゃられたような御指摘だと思います。特に小さいうちから発達のところでアドバイスがあるのとないのと随分成長に違いが出てくるでしょうから、そこは早いうちに指導ができるところがあれば、専門の者が指導するということも大事かと思います。

それと、民間園との交流というところでは、高砂市、他市に比べたらすごく進んでいるほうだと思います。子育ち応援フェアみたいな、ああいった大きなイベントができるのも高砂市ならではですし、こども狂言というような、民間も公立も一緒にやるような事業ができてるのが高砂ですので、おっしゃられたような本当の一番大事な根本である教育のところを一緒に考えていくという場を設けられないはずがないと思いますので、そこについてはどういった形で進めていくのか、また、園の先生方ともよく相談しながら、今御指摘いただいたこと、誠にそうだと思いますので、やっていきたいと思います。

○都倉達殊市長

ほか、よろしいですか。

それでは、三つの議題については以上ということになりますが、もしほかにありましたら、委員の方からお願いいたします。

それでは、ないようですので、本日の予定しておりました議事は終わりとさせていただきます。

○事務局

以上でございます。

本日の予定しておりました議題のほうは全て終了いたしました。

これをもちまして、令和３年度第２回高砂市総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。